

4K@60 4:4:4 対応

モジュール式シームレスビデオプロセッサ

DVP500x シリーズ

クイックスタートガイド Ver.1.0.0

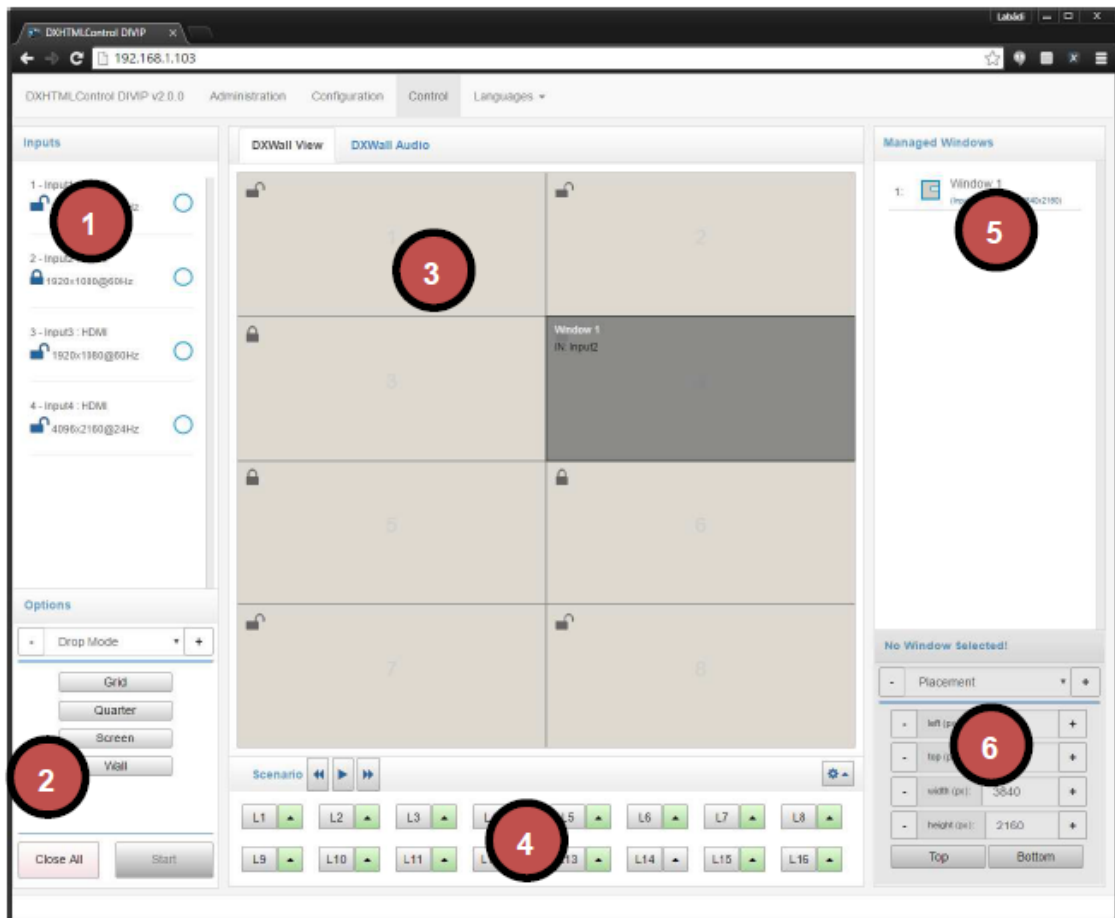
- この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
- 本製品の性能を十分に引き出してご活用いただくために、ご使用前に必ずこのクイックスタートガイドをお読みください。また、お読みになった後は、本製品近くの見やすい場所に保管してください。

クイックスタートガイド

1. ログイン

<p>ステップ1. DVI のローカルモニタ及び表示器を接続した後、フロントパネルの電源を投入してください。</p>	
<p>ステップ2. 起動後、ローカルモニタにログイン画面が表示されます。 ユーザー名とパスワードを入力してください。 ユーザー名 : Administrator パスワード* : (空白) *パスワードはログイン後の System Config から変更可能です。</p>	
<p>ステップ3. Web ブラウザからもローカルと同様の操作を行うことが可能です。デフォルト IP アドレスは DHCP 自動取得になっています。 IP アドレスはフロントパネルとキー操作によって以下の操作で変更可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Advanced ▶ Remote Control ▶ DHCP Enable へ進み、▶ ボタンを押します。 2. ▲▼ボタンで Disable を選び Set ボタンを押します。 3. ◀ ボタンを押して戻り、▲▼ボタンを押して IP Address を選び ▶ ボタンを押します。 4. ▲▼ボタンで IP アドレスを設定し、◀ ボタンで戻ります。 5. ▲▼ボタンを押して Network Mask を選び ▶ ボタンを押します。 6. ▲▼ボタンで IP アドレスのサブネットマスクを設定し、◀ ボタンで戻ります。 7. ▲▼ボタンを押して Apply now を選択し、Set ボタンを押します。 	

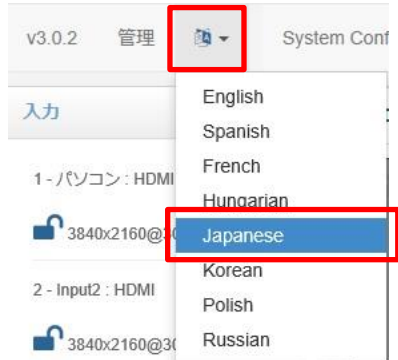
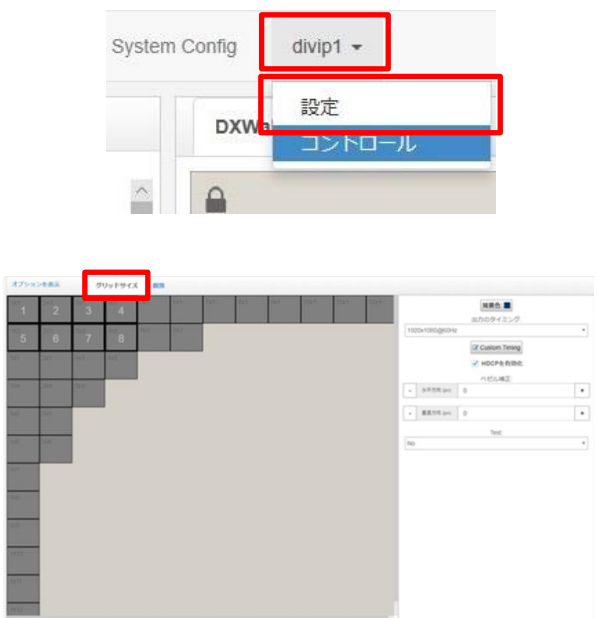

2. ビデオウィンドウの説明



① 入力信号ステータスエリア	<p>入力信号のステータスを表示します。 ここで認識された入力信号の解像度、リフレッシュレート、および HDCP のステータスを確認することができます。</p>
② オプションエリア	<p>ドロップモードの変更、グリッドラインの設定、切換効果、DXWall ビューのアスペクト比の設定を行います。 また「すべてを閉じる」ボタンを利用することで全てのウィンドウを閉じたり、「スタート」ボタンを利用して DXWall ビュー上で行った変更を表示器に反映させたりすることが可能です。 オプション内の「自動で反映させる」にチェックが入っている場合は、DXWall ビュー上で行った変更は直ちに反映されます。</p>
③ DXWall ビュー	<p>表示したビデオウィンドウを出力チャンネル間の目地をまたいで移動させることが可能です。DXWall ビュー上でビデオウィンドウを表す四角形をドラッグし、配置したい場所にドロップしてください。</p>

④ レイアウトボタン シナリオ再生・手動切換	ビデオウィンドウのレイアウトを保存し、ボタン操作一つで簡単に呼び出すことが可能です。 また、保存したレイアウトは、表示時間を設定して自動で切り換えること(シナリオ再生)が可能です。
⑤ ウィンドウ管理	表示中のビデオウィンドウの配置と入力信号のパラメータを表示します。また、Z 順序（最前面・最背面等）の変更も可能です。
⑥ ウィンドウプロパティ	ビデオウィンドウのパラメータの設定変更が可能です。以下の設定項目がこのエリアに表示されます。 <ul style="list-style-type: none">● 配置● アスペクト比を保持● トリミング● ソース切替● Effects● Frame● OSD

3. ビデオウォールの設定方法

<p>ステップ1. 初めてログインした場合、コントロール画面は英語表示になっています。以下の手順を行うことで日本語表示に変更できます。</p> <p>ログイン後、画面上部の言語設定アイコンをクリックし、「Japanese」を選択します。</p>	
<p>ステップ2. ビデオウォールの設定を行うには、画面上部の「System Config」の隣のタブをクリックし「設定」を選択してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオウォールの構成の設定を行います。グリッドサイズタブの画面上にてスクリーンの数と配置をクリックします。 2. 映像のベゼル補正についてはベゼル補正の入力項目にて、垂直方向と水平方向のベゼル幅を設定可能です。 	 <p style="text-align: center;"><u>ビデオウォール設定画面（グリッドサイズ）</u></p>
<p>ステップ3. 個別タブを選択することで、変則的なビデオウォール構成を設定することが可能です。</p>	 <p style="text-align: center;"><u>ビデオウォール設定画面（個別）</u></p>

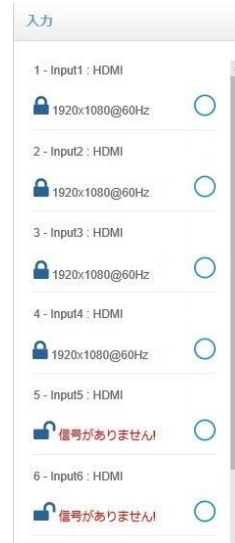
4. ビデオウォールの操作方法

ステップ1.

画面上部の「System Config」の隣のタブから「コントロール」を選択してください。ビデオウォールのコントロールが可能になります。

入力信号をスクリーン内に配置する場合は、以下の手順で行います。

1. 入力エリアにて、表示したい入力信号の右側にある○を選択します。
 - 鍵マークがついている入力信号は、HDCPが付加されています。
2. 入力信号を選択後、DXWall ビュー上の任意の場所をクリックします。DXWall ビュー内にビデオウィンドウが配置されます。
 - 入力チャンネルをドラッグして、DXWall ビュー上の任意の場所にドロップすることでビデオウィンドウを配置することも可能です。これをドラッグアンドドロップモードと呼びます。



ステップ2.

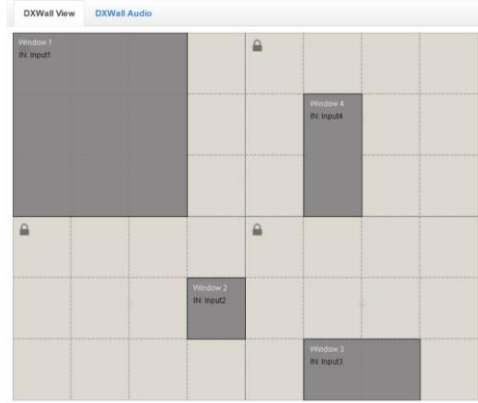
ドラッグアンドドロップモードを使用する場合、配置されるウィンドウの既定のサイズを変更できます。

1. オプションエリアから「ウィンドウ作成」を選択します。
2. グリッドサイズ、4分の1サイズ、画面サイズ、全画面サイズから選択します。

デフォルトサイズモード(Default Size Mode) : ボタンを選択しない場合、ウィンドウはデフォルトサイズで表示されます。

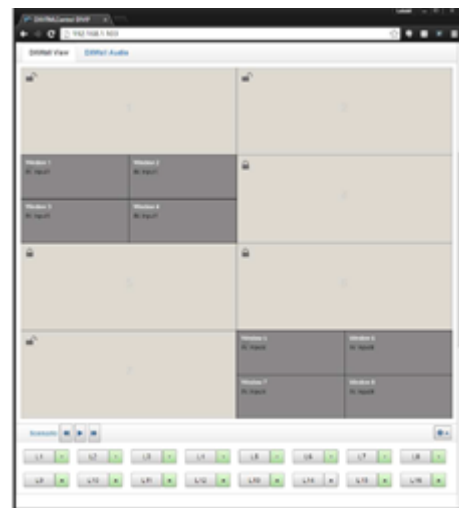


- **グリッドサイズ :**
選択されたグリッドによって定められるエリアに合わせて表示されます。



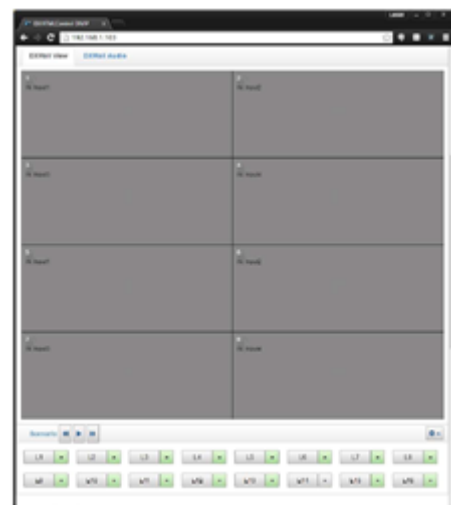
グリッドサイズ

- **4分の1サイズ :**
選択されたスクリーンサイズの1/4のサイズで表示されます。



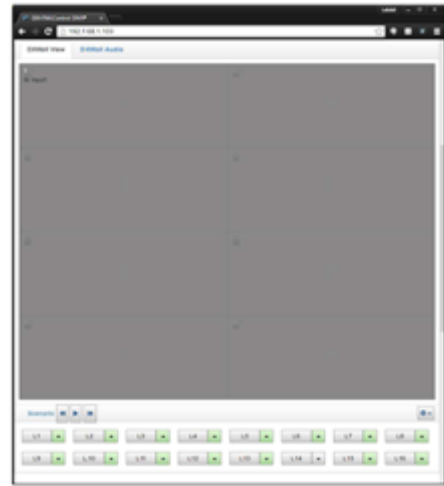
4分の1サイズ

- **画面サイズ :**
ドロップ先のスクリーンサイズで表示されます。



画面サイズ

- 全画面サイズ：
ビデオウォール全体のサイズで表示されます。

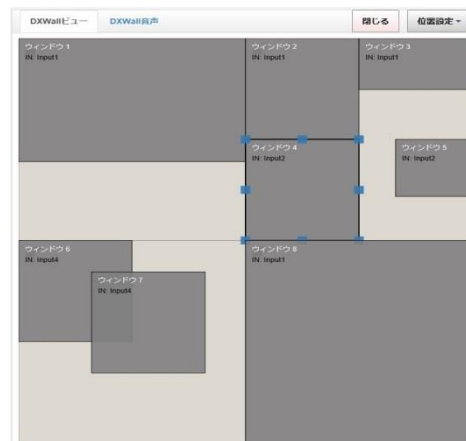


全画面サイズ

「すべてを閉じる」を押すことで、開いているビデオウィンドウをすべて閉じることができます。

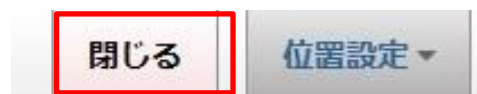
ステップ3.

DXWall 表示パネル状のビデオパネルにある濃い灰色の長方形をクリックすると、ウィンドウはアクティブになります。またコーナー近くにある青い四角形をドラッグして動かすことで、ウィンドウのサイズを変更することが可能です。



ステップ4.

DXWall ビュー上で入力ウィンドウを手動でドラッグして移動すると、各入力ウィンドウは希望の場所に配置することができます。
正確にサイズ変更したい場合には、ウォール上のウィンドウもしくは DXWall ビュー上のウィンドウをクリックすると、DXWall ビューの右上にウィンドウ操作メニューが表示されます。



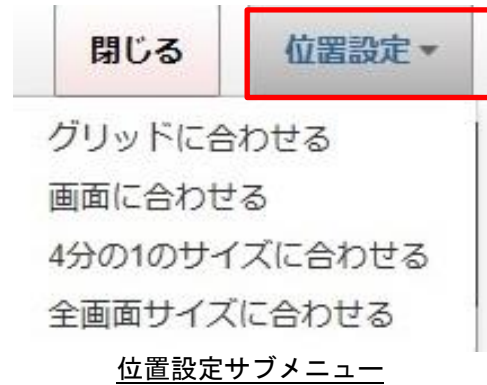
ウィンドウ操作メニュー

「閉じる」をクリックすると、選択されたウィンドウが削除されます。

「位置設定」のドロップダウンから選択したウィンドウのサイズが変更できます

また、ウィンドウが選択されている状態で、ウィンドウプロパティのドロップダウンから「アスペクト比を維持」を選び、「アスペクト比を維持」にチェックを入れると、ウィンドウのアスペクト比が保持されます。

重なりあっているウィンドウの順序を変更する場合は、ウィンドウが選択されている状態で、ウィンドウプロパティのドロップダウンから「配置」を選択します。前面に移動する場合は「上」ボタン、背面に移動する場合は「下」ボタンをクリックします。



アスペクト比保持プロパティページ



配置設定ページ

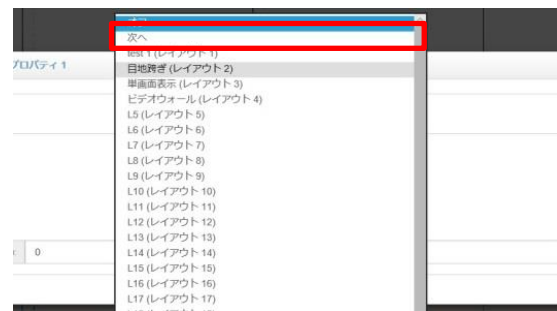
5. レイアウト、シナリオ再生登録方法

<p>ステップ1. Wall ビューの右下にある設定ボタンを押します。 「レイアウトの作成」をクリックすると、現在のウィンドウのレイアウト（配置）を保存できます。 「レイアウトの作成」を選択した際、レイアウトは何も保存されていないレイアウトボタンに新規に保存されます。</p>	
<p>ステップ2. 保存したレイアウトは画面下部にあるレイアウトボタンから呼び出しが可能です。</p>	
<p>ステップ3. 各レイアウトボタンを押すことで、保存されたレイアウトを表示可能です。 レイアウトを修正したい場合は、ウィンドウの配置を変更後、レイアウトボタンの右側の▲をクリックし、「保存」を選択することでレイアウトが上書き保存されます。</p>	
<p>ステップ4. 保存したレイアウトを指定した間隔で自動的に切り換え表示（シナリオ再生）することが可能です。 表示したいレイアウトボタンの右側の▲をクリックし、「プロパティ」を選択します。</p>	

「時間(s)」エリアでレイアウトの表示時間を設定します。

「次のレイアウト」のドロップダウンから時間経過後に表示するレイアウトを選択します。

「次へ」を選択すると、次のレイアウトボタンに切り替わります。確定するには「適用」「OK」ボタンをクリックします。



ステップ5.

DXWall ビューの下にあるシナリオボタンからシナリオの再生/停止/レイアウト切り替えができます。再生ボタンをクリックすることで、ステップ4で設定した時間でシナリオの自動再生が開始されます。停止ボタンをクリックすることで、再生を手動で停止できます。



ステップ6.

LAN 経由で外部から DXHTMLControl に接続している場合、作成したレイアウト/シナリオを.xml ファイル形式でエクスポートすることが可能です。Wall ビューの右下にある設定ボタン^{⚙️}をクリックし、「シナリオの保存」を選択します。保存したシナリオファイルは「シナリオを開く」を選択して DXHTMLControl にインポートすることが可能です。



DVP500x シリーズ クイックスタートガイド

Ver.1.0.0

発行日 : 2021 年 9 月 7 日



株式会社アルバニクス

本社 〒242-0021 神奈川県大和市中央 7-9-1

TEL: (046) 259-6920

FAX: (046) 259-6930

E-mail: info@arvanics.com

URL: <http://www.arvanics.com>